

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
地理歴史・世界史A	1	2	高等学校 世界史A (第一学習社)	明解世界史図説 エスカリエ (帝国書院) ふるさと富山 (富山県教育委員会)
科目の概要と目標	近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
単元	学習内容	到達度目標		
第1編 世界史へのいざない 第1章 自然環境と歴史 第2章 日本列島のなかの世界の歴史	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境と人類の活動を理解する。 日本の歴史と世界の歴史の関連を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理的なつながりで歴史に対する関心を高め、自然環境と人類の活動が相互に作用しあっていることについて考察する。 鉄砲伝来や石見銀山の事例から、地図や年表を用いて、日本の歴史と世界の歴史の関連を理解する。 		
第2編 世界の一体化と日本 第1章 ユーラシアの諸文明 1節 東アジア	<ul style="list-style-type: none"> 日本を含む東アジアの特質を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 東アジアの特質に対する関心を高め、中国の皇帝政治や北方民族との関係、国際秩序について理解する。 日本の文化との関連付けを行い多角的に考察をする。 		
2節 南アジア	<ul style="list-style-type: none"> 宗教と社会制度を共通基盤として南アジア世界を形成していることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 南アジアの多様性に関心をもち、宗教に関する資料を活用し、各宗教が及ぼした影響について考察する。 		
3節 東南アジア	<ul style="list-style-type: none"> 南アジア、東アジアの影響を受けて独自の世界を形成していることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 東南アジアにおける多様な社会・文化形成について把握する。 オリエント・イラン文明などに関心を高め、日本への影響を考察する。 		
4節 西アジア	<ul style="list-style-type: none"> イスラームが、広大な地域に急速に拡大し、独自の世界を形成したことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> イスラームの急速な拡大により独自の世界を形成したを理解する。 		
5節 ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> ギリシア・ローマ文明の伝統とキリスト教によって一つの文明を形成したヨーロッパ世界の特質を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ギリシア・ローマ文明がヨーロッパ世界の形成に与えた影響を把握する。 キリスト教が文明の基調となり今日まで受け継がれていることを諸資料を活用して考察する。 		
6節 アフリカ	<ul style="list-style-type: none"> 大河の流域毎に形成される諸王国の特徴を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 古くから独自の文明や王国が存在したことに関心を高め、大河の流域毎に形成されたアフリカの諸王国の特徴を理解する。 		
7節 アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> 文化の独自性、メソアメリカ文化圏、アンデス文化圏の特色について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> アメリカ文明の特色を、ユーラシアの諸文明と比較して考察する。 		
8節 ユーラシアの海の交流	<ul style="list-style-type: none"> ユーラシアの諸海域を結ぶ海域世界の成立と、ネットワークの概要、交流の具体的な様相を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ムスリム商人、中国商人の活躍についての資料を活用し、海のネットワークの概要と交流の具体的な様相を把握する。 		
9節 ユーラシアの陸の交流	<ul style="list-style-type: none"> 遊牧国家の特徴やモンゴルによるユーラシアの一体化の過程を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊牧国家の特徴やモンゴルによるユーラシアの一体化について理解する。 		
第2章 結びつく世界と近世の日本①～⑥	<ul style="list-style-type: none"> 14世紀から18世紀にかけての陸と海の動向を学習し、アジア諸地域の特質とその中での日本の位置付けを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> アジア諸地域の特質と日本の位置付けを理解する。 イスラーム世界の成熟について、オスマン帝国の宗教政策の視点から考察する。 明・清帝国と朝鮮・日本との関係、ムガル帝国・サファヴィー朝・オスマン帝国の動向に関する資料を活用する。 		
結びつく世界と近世の日本⑦～⑨	<ul style="list-style-type: none"> 「大航海時代」のヨーロッパとアフリカ、アメリカとの接触・交流を学習し、16世紀の世界の一体化への動きを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ルネサンスと宗教改革について関心を高め、歴史的背景について考察をする。 「大航海時代」のヨーロッパとアメリカ大陸との接触・交流に関する資料を活用し、アメリカ大陸の先住民社会の変貌について理解する。 		
結びつく世界と近世の日本⑩～⑬	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパに成立した主権国家体制や大西洋貿易の展開を学習し、17・18世紀の世界の特質を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 16世紀～18世紀にかけてのヨーロッパ諸国の動向と国際関係の推移に関する資料を活用する。 世界の一体化とそれに伴うアフリカ・アメリカの変容について関心を高め、多角的に考察する。 主権国家体制の成立と大西洋貿易の展開によるヨーロッパ社会の変容を理解する。 		
第3章 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成①～⑥	<ul style="list-style-type: none"> 産業革命の背景を世界史的視野からとらえ、産業革命の結果、資本主義経済が確立したことを理解する。 アメリカ独立革命・フランス革命によって、市民の政治的発言権の拡大が進み、国民国家形成の動きが生まれたことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 産業革命の結果、資本主義経済が確立したことを理解する。 産業革命が果たした歴史的意義について、関連する資料を活用して考察する。 アメリカ独立革命・フランス革命・ラテンアメリカ諸国の独立について関心を高め、背景と影響、歴史的意義について資料を活用し多角的に考察する。 アメリカ独立革命・フランス革命・ラテンアメリカ諸国の独立が相互に関連を持ちながら起こったことを理解する。 		

<p>ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 ⑦～⑫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ナポレオン戦争を通じて広まった国民主義がウィーン体制下で自由主義とともに高まりを見せ、イタリアやドイツなどで国民国家が形成されたことを理解する。 ・西部への領土拡張と移民の流入、先住民やアフリカ系奴隷に対する抑圧がアメリカの国民形成に独自の性格を与えたことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィーン体制下での自由主義・国民主義の運動について関心を高め、歴史的意義を考察する。 ・国民主義の高まりがドイツ・イタリアでの国民国家形成の原動力となったことを理解し、国民国家形成の過程を把握する。 ・ロシアの対外進出の背景を理解し、その動きがもたらした影響について多角的に考察する。 ・西部開拓と先住民・アフリカ系の人々への抑圧、移民流入について資料を活用し、アメリカの国民形成の独自性について理解する。
<p>第4章 アジア諸国の変貌と近代の日本</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ列強のアジア進出の特色を、ヨーロッパにおける資本主義の発展と関連付けて理解する。 ・ヨーロッパの進出によるアジア諸国の変容を学習し、19世紀の世界の一体化を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパを中心とするアジアでの国際分業体制の形成について、近代世界システム論の視点から追究し、19世紀の世界の一体化とその特質を考察する。 ・ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容、その中で日本の対応に関する資料を活用し、アジア諸国の内部で進行していた変化とヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌を考察する。 ・日本の明治維新とその後の近代化の動きがアジア諸国に与えた影響について考察する。
<p>第3編 地球社会と日本 第1章 帝国主義の時代</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義時代における列強の世界政策の様相を学習し、アジア・アフリカの変貌と諸民族の民族的覚醒について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義列強の世界政策によって世界がどのように変容したか追究する。 ・帝国主義列強の植民地支配について、民族・国境など現在まで残る問題と関連付けて考察し、理解する。 ・帝国主義列強の植民地支配、それに対する反帝国主義運動の高まりや近代化の動きについての資料を活用し、帝国主義列強にさらされたアジア・アフリカの変貌と諸民族の民族的覚醒について考察する。
<p>第2章 急変する人類社会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・19世紀末から20世紀初頭にかけての欧米諸国や日本などに見られた社会の急激な変化を把握し、現代社会の原型が成立したことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・19世紀末から20世紀初頭の社会の急変について資料を活用し、現代の社会と関連付けながら考察する。 ・19世紀末から20世紀初頭の社会の急変を追究し、現代社会の原型が成立したことを理解する。
<p>第3章 世界戦争と平和①～⑥</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦から1920年代の国際政治の大きな流れを学習し、国際社会の枠組みの変化を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦の原因について学習した内容と関連付けて追究する。 ・第一次世界大戦について資料を活用し、第一次世界大戦の性格と世界の変化について考察し、理解する。 ・第一次世界大戦後の世界の変化について、第二次世界大戦へとつながった問題点を含め、多角的に考察する。
<p>世界戦争と平和⑦～⑪</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌からファシズムの台頭を経て第二次世界大戦終結に至るまでの政治・経済の動向を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌からファシズムの台頭、第二次世界大戦に至るまでの過程を互いに関連付けながら、追究する。 ・世界恐慌の原因と影響、各国の恐慌対策、ファシズム台頭の背景と経過について資料を活用し、第二次世界大戦の原因を考察する。 ・米ソ冷戦の芽や原爆使用の意味について理解する。
<p>第4章 三つの世界と日本の動向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・米ソ両陣営の対立や民族独立運動の展開を学習し、1970年頃までの世界の政治・経済の動向を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立に関する資料を活用することで関心を高め、1970年代頃までの世界の政治・経済の動向を考察する。 ・アジア・アフリカの民族独立運動、第三世界の台頭とその国際的役割、アジア・アフリカ諸国が抱える諸問題について理解する。
<p>第5章 地球社会への歩みと課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1970年代以降の地球社会形成に向けての、諸地域世界の情勢の大きな流れを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1970年代以降の地球社会形成に向けての諸地域世界の情勢を資料を活用し考察する。 ・東欧諸国の民主化とソ連の社会主義体制の崩壊について関心を高め、歴史的意味を多角的に考察する。
<p>第6章 持続可能な社会への展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の特質や課題について自ら主題を設定して探求し、持続可能な社会の実現について展望する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の問題点を把握し、解決のために日本が果たすべき役割を考察する。 ・現代社会の特質や課題について自ら主題を設定し、主体的な研究を通して、歴史的視野から認識を深め、持続可能な社会の実現について展望する。 ・現代社会の特質や課題に関連する資料を収集・選択・活用し、探求した成果を論述、討論する。
<p>郷土史『ふるさと富山』 第1章 近世までのあゆみ 1 富山の夜明け 4 天下統一期の越中 5 江戸時代の越中</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・富山県の歴史のはじまりを理解する。 ・戦国末期からの越中支配政策を理解する。 ・江戸時代の加賀藩・富山藩の概略を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・富山県の歴史のはじまりが旧石器時代にさかのぼることを理解する。 ・縄文文化を代表する遺跡や遺物が県内から発見されていることを理解する。 ・越中を統治した戦国武将について資料を活用しながら考察する。 ・前田利長によって城下町として築かれた高岡が、商工業都市として生まれ変わり、現在の高岡市が両方の性格を残した歴史遺産都市であることを理解する。 ・全国最高の石高の加賀藩から富山藩が分藩し、現在の富山市の中心部に城下町が築かれたことを理解する。
<p>第2章 近代化のあゆみ 1 幕末維新期の越中 4 日露戦争と富山県の工業化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・越中において黒船来航による動きを理解する。 ・日露戦争による富山県への影響を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幕末期に伏木に黒船が来航したことでの、市民社会への動き、近代産業の起業やそれに対応できる人材育成の動きが始まったことを理解する。 ・日露戦争の勝利の陰に多くの県民兵の犠牲があり、その後の県産業も海外市場に向けた活動が展開されたことについて理解する。

8 近代都市の出現と昭和恐慌	・ 県都富山の近代都市への変貌を理解する。	・ 富山市が大陸市場との物流の拠点たるべく都市計画を受け入れ、県都にふさわしい市街地を形成するとともに、1930年代には郊外に重化学工業の資本を集積するようになったことを理解する。
9 第二次世界大戦と富山県	・ 第二次大戦における富山への影響を理解する。	・ 国策による満州開拓団と富山県から移住開拓した人々の生活を理解する。 ・ 戦争激化の富山県の状況、終戦直前に空襲を受け焼け野原になった富山市に関することを資料を活用し考察する。